資料3

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の経緯及びスケジュール（案）等について

高等教育局医学教育課

文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

医学、歯学、薬学、看護学のコアカリ策定・改訂の変遷

医学

医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議

H19.5 連絡調整委員会・専門教育研究委員会の設置

- H13.3策定
- H19.12一部改訂 — 基本的な資質の提示
- H23.3改訂 — 基本的な資質の修正
- H29.3改訂 — 基本的な資質・能力の提示

（学生受入）H14.4～ → H24.4～ → H30.4～

歯学

- H13.3策定
- H19.12一部改訂
- H23.3改訂
- H29.3改訂

（学生受入）H14.4～ → H24.4～ → H30.4～

薬学

薬学教育カリキュラムを検討する協議会

薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議

H23.7 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会の設置

- H14.8策定（専門教育部分）
- H15.12策定（実習部分）
- H25.12改訂 — 基本的な資質の提示

（学生受入）H18.4～ → H27.4～

看護学

H28.10 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会

- H29.10策定 — 基本的な資質・能力の提示

（学生受入）H31.4～

平成29年 「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」の策定

1.「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」とは

○ 全国の看護系大学が学士課程における看護師養成教育において共通して取り組むべき内容を抽出し、各大学のカリキュラム作成の参考として示したもの

○ 学生が卒業時までに身に付けておくべき必須の看護実践能力について、その修得のための具体的学修目標を、学修時間数の3分の2程度になるように精選し示したもの

2. 策定の背景

○ 看護系大学の急増に伴い、教育水準の維持向上が課題
（平成3年11校→平成29年255校）

○ 地域包括ケアシステムの構築、多職種連携・チーム医療の推進、更なる医療安全の要請等の社会の変化に対応し、看護師として必要となる能力を備えた質の高い人材養成が必要

平成28年10月から有識者会議を設置し、大学の学士課程における看護師養成教育の充実と社会に対する質保証に資するため「モデル・コア・カリキュラム」の策定に向けて検討
パブリックコメントの結果も踏まえとりまとめ、平成29年10月公表。各大学でカリキュラムの検討開始
平成31年度から、各大学において「モデル・コア・カリキュラム」を踏まえたカリキュラムが順次開始

平成29年 看護学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

（生涯を通して）〇看護系人材として求められる基本的な資質・能力

保健・医療・福祉等の分野において、人々の健康で幸福な生活の実現に向けて貢献できる看護系人材

卒後

学士課程卒業時　A　看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力

様々な場面で人々の身体状態を観察・判断、状況に応じて適切な対応ができる看護実践能力

学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標

Aに示される資質・能力の修得につながる学修目標

B　社会と看護学

健康の概念、ライフスタイルと健康
法律・制度、社会における看護職の役割、倫理・個人情報保護等

C　看護の対象理解に必要な基本的知識

看護とは、生活者としての人間理解
身体・心の側面からの人間理解
生体機能・健康障害の種類・薬理・放射線　等

D　看護実践の基本となる専門基礎知識

看護過程、看護基本技術、対象特性別（発達段階・健康の段階）の看護、組織における看護活動　等

E　多様な場における看護実践に必要な基本的知識

多様な場に応じた看護、地域包括ケア、災害時の看護実践　等

F　臨地実習

看護の知識・技術の統合、ケアへの参画、チーム医療の一員としての自覚　等

G　看護学研究

看護研究における倫理、看護研究を通した看護実践の探究　等

平成29年 看護学教育モデル・コア・カリキュラム

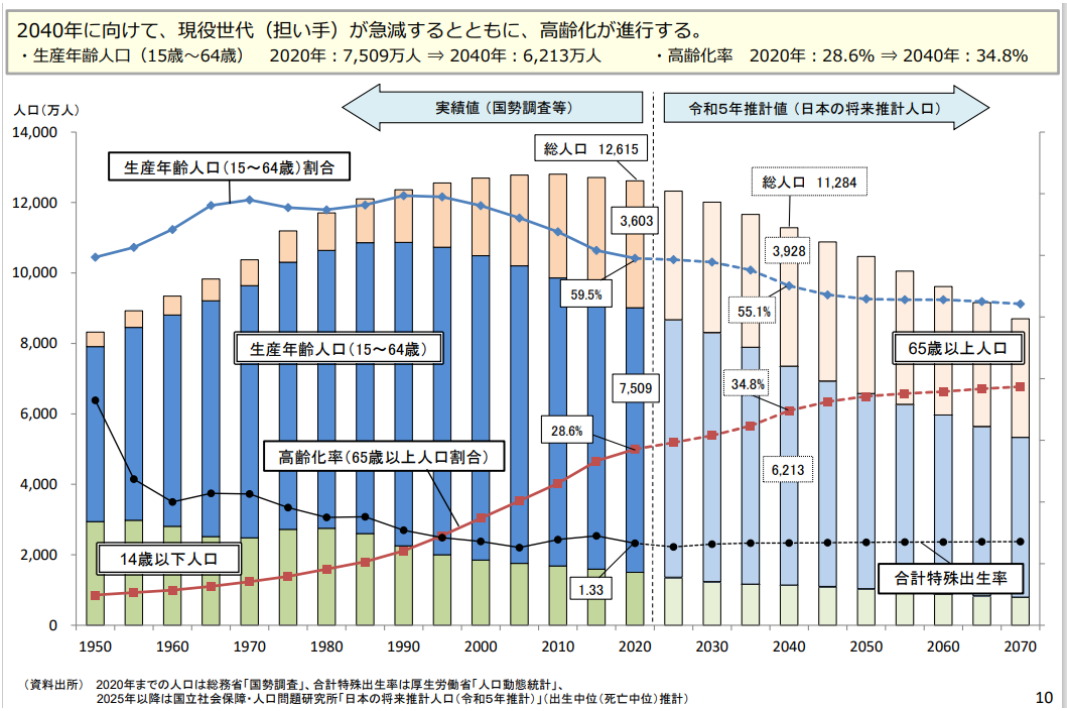
看護系人材として求められる基本的な資質と能力

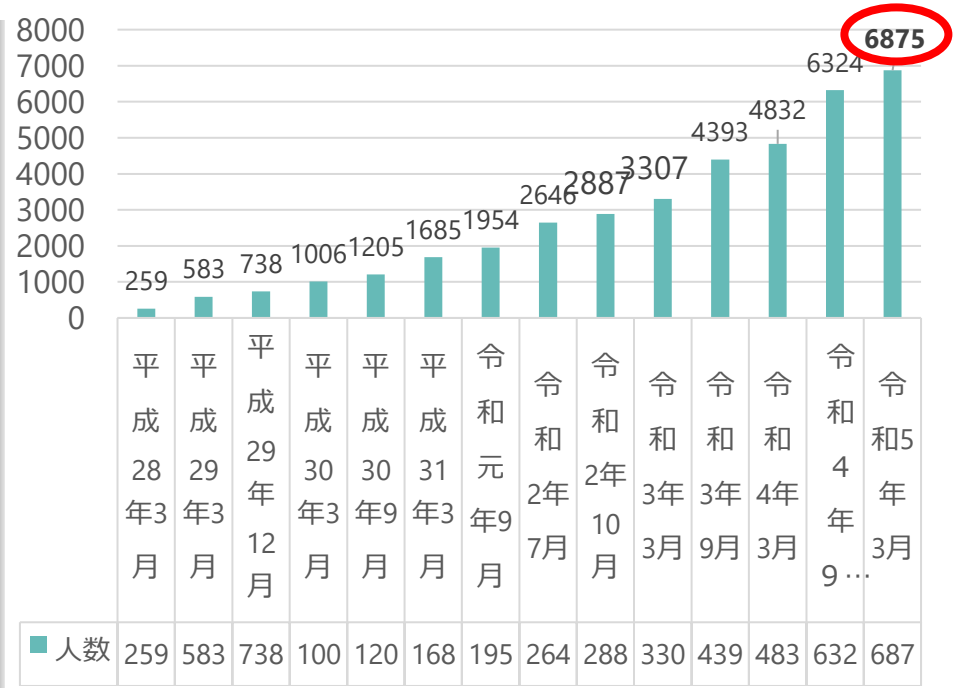
1. プロフェッショナリズム
2. 看護学の知識と看護実践
3. 根拠に基づいた課題対応能力
4. コミュニケーション能力
5. 保健･医療･福祉における協働
6. ケアの質と安全の管理
7. 社会から求められる看護の役割の拡大
8. 科学的探究
9. 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の経緯

2040年を見据えた日本の看護学教育を取り巻く背景

- 2025年以降高齢者人口の増加は落ち着くが生産年齢人口の減少は加速、総人口は減少傾向であり
  全世代への急性期から慢性期を含めた一体的な地域医療提供体制の構築が必要
- 新型コロナウイルス感染症、自然災害等の経験で、救急医療や地域医療における、医療機関の役割分担や連携が不十分である等の課題
- 在宅医療を支えるために平成27年に制度化された特定行為研修の修了者が十分に増えていない状況(R5.3月 6875名)
- 令和3年に「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」が成立し、令和６年度以降、医師に対し時間外労働の上限規制が適用
- Society 5.0社会における医療DX推進、遠隔診療やロボット活用による医療の質向上と効率化
- 学習者本位の教育への転換、資質・能力ベースのカリキュラム改革、教育DXの推進





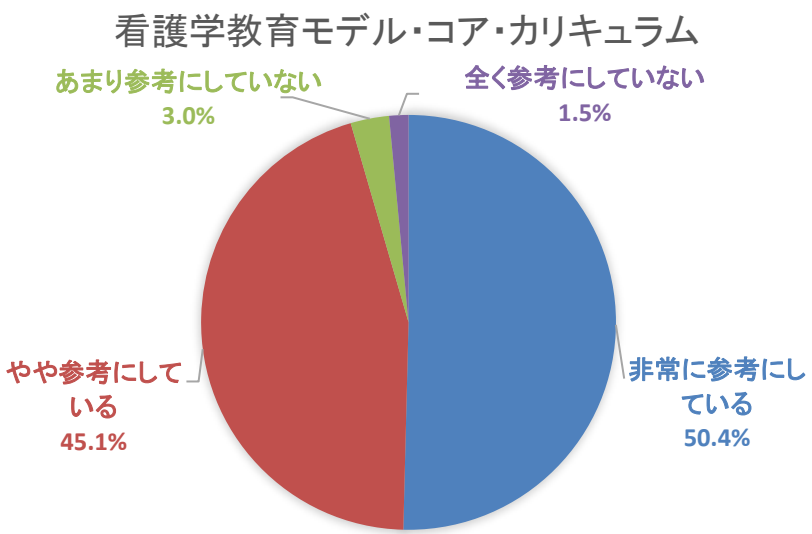
特定行為研修修了者の推移（令和2年はCOVID19影響で7月末時点）

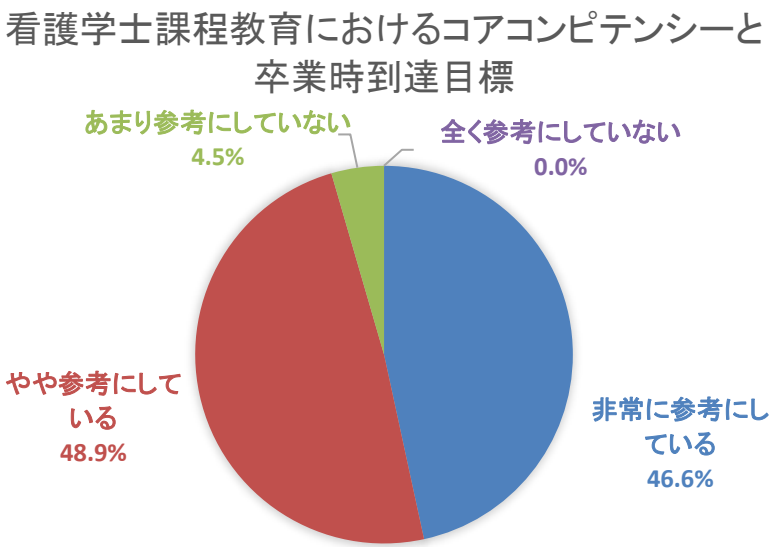
看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の経緯

看護系大学カリキュラムの指針

看護系大学のカリキュラムの指針には、看護学教育モデル・コア・カリキュラム（コアカリ）以外に、日本看護系大学協議会（JANPU）の作成した「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標（コンピテンシー）」等がある。ほぼ全ての大学が参考とする医歯薬学モデル・コア・カリキュラムと異なり、看護は指針が分かれている。

【大学でカリキュラムを改訂する際に参考にしているもの】





（「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」― JANPU 会員校における活用状況と課題 ―，2019年　JANPU調査より作成）

看護系大学にとってよりわかりやすいカリキュラムの指針とするため、コアカリとコンピテンシーを、新しい1つのものにするべきではないか

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の経緯

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた基本方針（案）

- 2040年の社会を見据えた、看護系人材として求められる資質・能力の改訂
- 地域医療構想が推進される中、多様な場面（医療施設や在宅、医療的ケア児、新興感染症や大規模災害発生時等）で専門性の高い看護実践ができる人材養成
- 今後さらに重要となる在宅医療や急性期医療を支え、多職種連携の中で看護の専門性を発揮するために、特定行為研修に定められているような高度な看護実践の基盤となる知識の獲得
- 看護援助技術の確実な習得のための、演習・実習の効果的な方法の提示
- Society 5.0社会における情報・科学技術を看護に活用する能力の獲得
- 資質・能力をベースとした学修目標の再編成と学修方略・評価の明示
- 看護学教育におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の活用
- 電子化等による、教育者、学習者にとっての活用しやすさの向上

看護学教育モデル・コア・カリキュラムの活用状況調査

実施者：文部科学省高等教育局医学教育課

Ⅰ.調査方法

1.対象：文部科学大臣が指定する看護師養成大学300課程

2. データ収集方法：メールにて調査票を配布

3. 調査内容：

1）カリキュラム作成時に「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」を参考にしているか

2）次回のコアカリ改訂の際に、新たに追加したほうが良いと思う項目・内容

3）次回コアカリ改訂にて、削除してもよいと思う項目

4. 調査期間：2023年3月29日～4月21日

Ⅱ. 結果

1. 回答数：230課程（国立38課程、公立34課程、私立157課程、不明1課程　）

回収率：　76.7%

看護学教育モデル・コア・カリキュラムの活用状況調査

2）次回のコアカリ改訂の際に、新たに追加したほうが良いと思う項目・内容

回答数　147件

（概要）

〇情報・科学技術の活用（ICTやAIの活用、遠隔看護　等）

〇災害や感染症看護（自然災害、新興感染症、健康危機管理　等）

〇地域・在宅看護（地域共生社会、入退院調整　等）

〇遺伝看護

〇対象理解（家族、メンタルヘルス、医療的ケア児、ジェンダー　等）

〇社会（社会情勢・問題への関心と継続的学び、SDGs　等）

〇臨床推論・臨床判断

〇看護教育（看護の教育的役割と機能　等）

〇学修方略（シミュレーション教育、臨地実習　等）

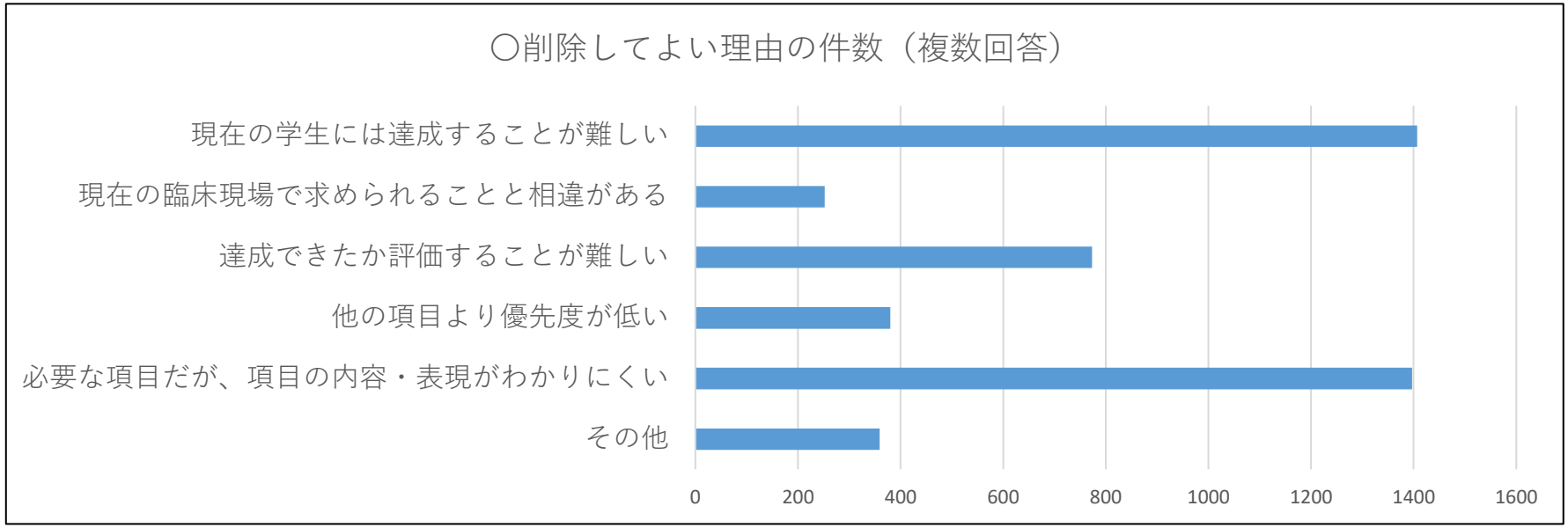
〇研究・統計

看護学教育モデル・コア・カリキュラムの活用状況調査

3）次回コアカリ改訂にて、削除してもよいと思う項目

〇回答のあった230校のうち20校以上が削除してもよいと回答した項目は30項目（517項目中）

A　看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力・・・14項目（51項目中）
B　社会と看護学・・・4項目（51項目中）
C　看護の対象理解に必要な基本的知識・・・3項目（166項目中）
D　看護実践の基本となる専門基礎知識・・・2項目（157項目中）
E　多様な場における看護実践に必要な基本的知識・・・なし（46項目中）
F　臨地実習・・・6項目（34項目中）
G　看護学研究・・・1項目（12項目中）



看護学士課程教育におけるコアコンピテンシー

Ⅰ群	対象となる人を全人的に捉える基本能力
1.	看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力
2.	人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力
3.	人間を生活者として理解しアセスメントに活かす基本能力
4.	人間を取り巻く環境について理解しアセスメントに活かす基本能力
Ⅱ群	ヒューマンケアの基本に関する実践能力
5.	看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
6.	実施する看護を説明し意思決定を支援する能力
7.	援助的関係を形成する能力
Ⅲ群	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
8.	根拠に基づいた看護を提供する能力
9.	計画的に看護を実践する能力
10.	健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力
11.	個人と家族の生活をアセスメントする能力
12.	地域の特性と健康課題をアセスメントする能力
13.	看護援助技術を適切に実施する能力

Ⅳ群	特定の健康課題に対応する実践能力
14.	健康の保持増進と疾病を予防する能力
15.	急激な健康破綻と回復過程にある人を援助する能力
16.	慢性・不可逆的健康課題を有する人を援助する能力
17.	エンドオブライフにある人と家族を援助する能力
Ⅴ群	多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力
18.	地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力
19.	保健医療福祉における看護の質を改善する能力
20.	地域ケア体制の構築と看護機能の充実を図る能力
21.	安全なケア環境を提供する能力
22.	保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力
23.	社会の動向と科学技術の発展を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力
Ⅵ群	専門職として研鑽し続ける基本能力
24.	生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力
25.	看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力

コンピテンシーごとに卒業時の到達目標と教育内容（例）が記述されている構成

「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」 平成30 年6 月　日本看護系大学協議会　より作成

AACN（American Association of Colleges of Nursing）の提唱する看護師に必要な資質・能力

【看護師に必要な10のDomains】

1. Knowledge for Nursing Practice
2. Person-Centered Care
3. Population Health
4. Scholarship for the Nursing Discipline
5. Quality and Safety
6. Interprofessional Partnerships
7. Systems-Based Practice
8. Informatics and Healthcare Technologies
9. Professionalism
10. Personal, Professional, and Leadership Development

【看護実践に必要な8のConcepts】

・Clinical Judgment
・Communication
・Compassionate Care
・Diversity, Equity, and Inclusion
・Ethics
・Evidence-Based Practice
・Health Policy
・Social Determinants of Health

（THE ESSENTIALS: CORE COMPETENCIES FOR PROFESSIONAL NURSING EDUCATION, American Association of Colleges of Nursing, 2021）

医学/歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分を抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの。
- 初版は平成13年に策定。医療を取り囲む環境変化に伴い改訂（平成19年度、22年度、28年度）。
- 学生が**卒業時までに身に付けておくべき必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）**に関する学修目標を**明確化**。
- 学生の学修時間数の**医学:3分の2程度、歯学:6割程度**を目安としたもの （残りは各大学の特色ある独自のカリキュラムを実施）。

キャッチフレーズ

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

人口減地域の増加

新興感染症・災害リスクの増大

高齢化率の上昇

新規科学技術の台頭

「医師/歯科医師に求められる基本的な資質・能力」を共通化（赤字は新設）

- PR. プロフェッショナリズム
- **GE. 総合的に患者・生活者をみる姿勢**
- LL. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- RE. 科学的探究
- PS. 専門知識に基づいた問題解決能力
- **IT. 情報・科学技術を活かす能力**
- CS. 患者ケアのための診療技能
- CM. コミュニケーション能力
- IP. 多職種連携能力
- SO. 社会における医療の役割の理解

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）

医学教育モデル・コア・カリキュラム　改訂の基本方針

1. 20年後以降の社会も想定した医師として求められる資質・能力の改訂

医学・医療をとりまく社会の変革や科学技術の進歩などを考慮にいれた「資質・能力」は、生涯にわたり研鑽して獲得する、医療人としての資質・能力と位置付け、将来の医師像を明確に示した。

2. アウトカム基盤型教育のさらなる展開(学修目標の再編成と方略・評価の整理)

従来、科目・教科の順次性に沿ったモデコアカリであったものを、アウトカム基盤型教育の考え方に則った資質・能力ごとの記載へと改変した。また、第2章を「学修目標」、第3章を「学修方略・評価（初めて章を立てて記載）」としてそれぞれ第1章に展開した資質・能力に紐付けて記載した。

3. 医師養成をめぐる制度改正等との整合性の担保に向けた方策の検討

共用試験や医師国家試験との整合を図り、シームレスな診療参加型臨床実習を推進するために、医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）や厚生労働省と情報交換を行い、診療参加型臨床実習実施ガイドライン等に反映した。国際基準に対応した。

4. スリム化の徹底と読み手や利用方法を想定した電子化

5. 研究者育成の視点の充実

6. 根拠に基づいたモデル・コア・カリキュラムの内容

7. 歯学・薬学教育モデル・コア・カリキュラムとの一部共通化

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）

第1章　医師として求められる基本的な資質・能力

- 医師として求められる10の基本的な資質・能力とその説明文を記載

PR.	GE.	LL.	RE.	PS.	IT.	CS.	CM.	IP.	SO.
プロフェッショナリズム	総合的に患者・生活者をみる姿勢	生涯にわたって共に学ぶ姿勢	科学的探究	専門知識に基づいた問題解決能力	情報・科学技術を活かす能力	患者ケアのための診療技能	コミュニケーション能力	多職種連携能力	社会における医療の役割の理解

第2章　学修目標＋学修目標の別表

- 資質・能力に紐付いた個別の学修目標を記載
- 「習得すべき疾患」「基本診療科」「主要症候」等を別表として一覧表示

第3章　学修方略・評価

方略

- 参考となる教育学の理論等を提示
- 代表的な用語の解説

評価

- 評価の概念・考え方を提示
- 評価方法の記載

方略・評価事例紹介（参考）

- 方略・評価について参考になるような事例を11例紹介

診療参加型臨床実習実施ガイドライン

- 実施体制・実施環境
- 学修と評価の記録
- EPA

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた検討体制とスケジュール（案）

令和4年度 | 令和５年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度

R5.7 | R6.5 | R6.12 | R7.4 | R8.4

文科省主催委員会

第1回　連絡調整委員会
①関連調査の報告、改訂方針提案
②改訂方針（案）に関する議論　等

第2回　連絡調整委員会
コアカリ改訂原案の確認・意見
↓反映させてパブコメへ

パブリックコメント

→

第3回　連絡調整委員会
コアカリ決定

周知

スタート　令和８年度入学生から適用

日本看護系大学協議会（JANPU）と文科省医学教育課との意見交換

コアカリ改訂原案の提示

意見

調査研究チーム

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究

成果の共有

学士課程における看護学教育の質保証に関する調査研究